

かねざわ 第47号

平成25(2013)年11月

- ・ 来年度の学習会予定がほぼ決まりました(p2)
- ・ 「分科会からの便り」に「古文書を読む会」から寄稿(p21)
- ・ 「オリンピックの思い出」原稿募集(p27)



次

運営委員会からのお知らせ

- 2 2014年度学習会予定
- 3 「公開歴史講座」参加募集
- 3 継続会員の手続きについて
- 4 “わ”の会 15周年記念
『新版かねざわの歴史事典』重版報告

- 5 “わ”の会 15周年記念講座報告
- 7 “わ”の会 15周年記念パーティー報告

学習会

- 9 学習会の概要とアンケート結果

分科会からの便り

- 14 「懐かしの映画」鑑賞録 No. 12 佐藤 晃
- 16 「浮雲俳句会」抄録 No. 23 北野 清市

- 19 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 NO.3 小俣悦男
- 20 中高年のゆったり登山 小俣悦男
- 21 幕末役人の絵入り旅日記
「古文書を読む会」代表 真田 雅行

歴史研究

- 23 金沢の仏教寺院(1) 「寺社を巡る会」熊谷 哲
- 26 『吾妻鏡』を読む(10) 小倉 英明

会員短信

会報原稿募集

訂正とお詫び

行事予定

- 28 2013年12月～2014年2月の予定



金沢区生涯学習 “わ” の会

ホームページ：<http://kanazawa-wanokai.in.coccan.jp/>

メー ル：yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

2014年度学習会予定

2014年度の学習会として、下表のような予定を立てました。

	日時・会場	テーマ	講師
1	5月10日(土) 9:30~12:00 能見台地区センター	“わ”の会定期総会 9:30~	“わ”の会 元代表 高橋 好一 氏
		野口英世と横浜金沢、そして私 10:40~	
2	6月14日(土) 13:30~16:00 金沢地区センター	金沢北条氏 ①実泰から実時	東洋大学 講師 細川 重男 氏
3	7月12日(土) 13:30~16:00 能見台地区センター	金沢北条氏 ②実時から顕時	東洋大学 講師 細川 重男 氏
4	8月 (日時未定) 県立金沢文庫	【訪問講座】 文庫展示関連講座	県立金沢文庫学芸員
5	9月13日(土) 9:30~12:00 金沢地区センター	慶珊寺と富岡の歴史(仮)	慶珊寺 住職 佐伯 隆定 氏
6	10月10日(金) (集合場所・時間未定)	【探訪】富岡地区を巡る 慶珊寺~長昌寺~南部市場 ~横浜ベイサイドマリーナ	探訪実行委員会
7	11月8日(土) 9:30~12:00 能見台地区センター	古文書よりみた泥亀新田開発	古文書を読む会 代表 真田 雅行 氏

5月は、当会の元代表・高橋好一氏(2001~04在任)による野口英世についての講演です。高橋氏は、当会の基礎構築に尽力され、当会の運営が順調に進むようになった頃から、野口英世を顕彰し、長浜に残る野口ゆかりの細菌検査室の保存と活用を図る活動にも参加されてきました。長浜をはじめ横浜と野口英世の関わりおよび高橋氏自身の活動について語ります。

6月と7月は、従来から継続して進めています。通史の一環です。いよいよ金沢北条氏を学習します。まず3代の実泰、実時、顕時の実像と背景を描きます。来年度には貞顕(貞将)を予定しております。講師の細川重男氏は、鎌倉時代の著書も多く、ご存知の会員もおら

れるでしょうが、当会初登場です。どうぞご期待ください。なお、講演時間が、細川氏のお住まいの関係から午後になります。ご注意ください。

8月は恒例の金沢文庫の展示と連携した講座になる予定です。

9月は慶珊寺ご住職の佐伯隆定氏による講演です。演題はまだ仮題ですが、興味深い「歴史」の話になるのは間違いありません。佐伯氏の富岡を中心にした長年の歴史研究が、1冊の本にまとめられるとのこと。これもまた楽しみです。

10月の探訪は9月の学習を受けて、慶珊寺、長昌寺などを巡り、南部市場(閉鎖が決まっている)やベイサイドマリーナも予定してい

ます。金沢区北部の今昔の探訪になると思
います。

11月 は分科会「古文書を読む会」代表の真
田雅行氏の講演です。真田氏の講演は2回目

で、前回は古文書の「読み方」の手ほどきで
したが、今回は古文書を通して「歴史」をど
う見るか、という基礎的な講座になりそう
です。大いに勉強させられることでしょう。

「公開歴史講座」参加募集

本年度の「公開歴史講座」は次のように予
定しております。多くの会員のご聴講をお願
い申し上げます。

〈実施・募集要項〉

- 日 時：2014年2月8日（土） 9:30～12:00（開場 9:15）
- 会 場：能見台地区センター
- テ ー マ：「東京湾をめぐる小田原北条氏と房総勢力
—金沢・三浦地域を中心として」
- 講 師：青山学院大学 講師 真鍋 淳哉 氏
- 参 加 者：“わ”の会会員、市民
- 会 費：“わ”の会会員 300円、市民 500円
- 受付・締切：会員の優先受付は11月9日（土）から12月6日（金）まで
（締切り後は、市民の募集を開始し、会員優先はなくなり、市民と同格扱いでの先着順
となります）
- 申 込：① 11月の学習会での申込
② その後は、電話またはメールで
電 話 045-775-0722（運営委員 沓掛）
メール yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

継続会員の手続きについて

2014年度へ継続会員の手続につきましては、 9月14日の第5回学習会にて案内ビラを配布し、
会場での受付を行いました。また、11月10日の 第7回学習会でも再度ご案内を行い、会場での受
付を行いました。その後の受付は会費の銀行振 込みによるものとし、下記の要領で行います。
なお、銀行口座の代表者名が昨年度から変更にな
っていますのでご注意ください。継続を希望され、まだ手続きを済まされてい
ない方はお忘れなき様をお願い致します。期限
が過ぎますと欠員分について市民からの新規会
員の募集を行います。

継続会員申込み要領 (11月の学習会以後の場合)

☆ 締 切 : 12月5日

☆ 会 費 : 3000円

☆ 振込口座 : 横浜銀行 金沢支店(店番号351) 普通預金 口座番号 1324219

名義人 金沢区生涯学習“わ”の会 代表 今井 鎮夫 (イマイ シズオ)

*勝手ながら、会費振込みを以って申込を頂いたものとさせていただきます。

“わ”の会 15周年記念 『新版かねざわの歴史事典』重版報告

“わ”の会創設 15周年記念事業のひとつ『新版かねざわの歴史事典』重版が9月26日に刊行となり、作業はひとまず完了しました。2013年の1月から5回の重版会議を開き、毎回15名から20名の会員の方が出席されました。

そこで討議し、今回重版本で修正した語句や表記が別添の修正項目一覧表です。既刊の事典をお持ちの皆様にはこの表にもとづいて修正作業を実施していただければ重版本と同じ内容になります。

今回の重版本の発行部数は300部です。奥付に3刷となっています。3年前に1000部刊行したあとすぐ200部を追加刊行しており、その1000部を1刷、200部を2刷としたため、3刷りとなりました。2刷りの200部は奥書を含めて全くの無修正で刊行しましたので、既刊本では1刷と2刷の区別はつきません。

現在、金沢区役所売店、岩下書店（アピタ

金沢文庫店3F）、県立金沢文庫売店（新規再開店の「かなぶんカフェ」）の3箇所に「事典」は置いてあります。1冊1300円（税込み）です。なお、当会会員には運営委員会からの直販を致します。その場合は1冊1000円です。

諸経費は、予算の230000円を若干上回っています。それは来年5月の総会でご報告いたします。

総会でも申し上げましたが「事典」は当会の大黒柱だと思っております。これで当面は、いつでも「事典」が欲しいと思う会員や市民の方は手に入れられるようになりましたし、新入会員にもお渡しできるようになりました。

当会からの市民への還元サービスのひとつとして、上記3店に「事典」が常備できるよう努力してまいります。

“わ”の会 15周年記念講座報告

発端

2013年度は“わ”の会創設15周年、大橋新太郎生誕150年に当たる。ご承知のように、大橋新太郎は当地金沢区にとっても、また県立金沢文庫にとっても重要な人物。したがって、2013年度において金沢区役所や県立金沢文庫で何か記念行事を打ち出すのは当然であろう。それならば、金沢区役所や県立金沢文庫とタイアップし、会員と区民の参加を考えた“わ”の会15周年記念講座を考えたい。運営委員会はそう考えました。

講師と内容

講座といえば講師。大橋新太郎といえば、地元金沢の酒井宣子先生。その他には思い浮かばない。金沢区役所でも県立金沢文庫でも大橋新太郎に関する行事を考えると「酒井先生に」ということになるであろう。そこで、いち早く酒井先生とのコンタクトをはじめた。

酒井先生にお会いしてお話を伺うと、大橋新太郎の孫娘がお二人おいでになり、先生とお二人の間には現在も交流があるとのこと。お孫さんをお招きして、先生の講演とお孫さんを交えてのパネル対談のセット行事が実現出来ないかと、ご相談申し上げた。先生の講



酒井宣子先生

演は引受けて頂いたが、お二人ともご高齢でお孫さんの出演は無理であろうとのことであった。講演のテーマは「大橋新太郎と金沢」となった。

会場探し

つぎに会場。区役所とのタイアップで金沢公会堂。しかし、区役所との話しがなかなか具体化しなかった。一方、県立金沢文庫との話し合いの中で、酒井先生が県立金沢文庫において解説ボランティアの中心的役割を果たしておられることから、県立金沢文庫の解説ボランティアとして講演を頂くことで、例年8月の訪問講座と同様に県立金沢文庫の会議室を利用させて頂くことが可能なことが判明。県立金沢文庫の会議室は120人ぐらいの収容が可能で、会員とともに市民にも参加頂けるのに最適な会場が確保できた。

開催日は8月10日(土)。講座に引続き同日に記念パーティーを開催するために、開始時刻は13時30分と決まった。

講座のPR

講師と会場が決まり、次は会員と市民へのPRである。会員枠を確保し、その上で出来るだけ多くの市民の参加を図りたい。それで、まづ会員へのPRと参加募集を行い、会員の参加数を確定した。市民へのPRには区役所の協力が重要で、記念講座に対して区役所の協賛を頂き、広報よこはま7月号金沢区版に記念講座の案内と参加募集を掲載してもらえたこととなった。

この間に、金沢区役所と県立金沢文庫の間で活動協定が結ばれ、両者間と各々における大橋新太郎に関する記念行事が具体化された。

7月発行の広報よこはま金沢区版には「特集・金沢の偉人再発見 大橋新太郎」が組ま

れ、金沢における大橋新太郎の業績、逸話、ゆかりの地、県立金沢文庫での行事が掲載され、当会の記念講演会も県立金沢文庫での行事のひとつとして紹介された。この広報の効果に期待して市民へのPRはこれのみとし、今回は市民に対する独自のPRチラシは作成しなかった。

応募状況

広報掲載の効果は大きく、一般の市民はもちろん、大橋新太郎のご親族、新任の酒井先生宅を訪ね、筋向かいの大橋邸の庭で共に遊んだ教え子などからの申込が多数集まった。開催日が近づいてからも断りきれない申込みがあり、参加予約の総数は当初見込みをかなり上回り、会場にあふれが生じないか心配であった。

当日の出席状況

当日の8月10日は大変に暑い日であった。

大橋新太郎のご親族3名、区役所からは区長と担当の方の2名、酒井先生の教え子5名も着席され、定刻になる頃にはうまい具合にほぼ満席となった。結局、参加者は会員75(男67、女8)名、市民43(男18、女25)人、合計118(男85、女33)人でした。オーバーフローとはならず一安心。

講座の内容

酒井先生の講演。講演に続き、予定外の、小山嘉子さん(大橋新太郎の孫)、大橋清さん(大橋新太郎の弟の孫)、菊地さん(教え子5名の代表)のお話しが飛び出した。最後に、梅沢恵さん(県立金沢文庫の学芸員)の展示説明と大橋コレクションの話があった。これらの内容については、後述の「学習会の概要」のページを参照下さい。講演会終了後、3班に分かれて展示見学を行った。酒井先生と教え子5人は会場に残られ、記念撮影や暫しの歓談がなされた。



会場いっぱいの受講者



小山嘉子さん(大橋新太郎の孫娘)



大橋清さん(大橋新太郎の弟の孫)



梅沢恵さん(県立金沢文庫・学芸員)

“わ”の会 15周年記念パーティー報告

酒井宣子先生による“わ”の会創設15周年記念講座「大橋新太郎と金沢」の終了後、横浜市立大学構内のシーガルホールに場所を移して、15周年記念パーティーを開催しました。

出席人数は、講座講師の酒井宣子先生、講座に協賛を頂いた金沢区役所を代表して林区長と担当者の2名、会員36名でした。

冒頭の開会の挨拶で、今井鎮夫代表が15年の足跡、会員も倍増しておりこれからも長く発展させていきたい旨、抱負を語りました。



今井代表 挨拶

祝辞では、林区長より、大橋新太郎をもっと広く区民に知ってもらいたい、郷土の歴史を社会科の授業に取り上げるなどして、その重要性をもっと認識してもらい町を盛り上げてゆきたい。“わ”の会の存在は大きくなりますのご発展を期待したい旨のお言葉を頂きました。



林区長 祝辞

次に講演をいただきました酒井宣子先生より、“わ”の会の運営、企画、今日の天気のような熱い心、情熱には敬意を表します。今後も輝く生涯学習を続けてほしいなどお祝いのお言葉を頂きました。



酒井先生 祝辞

乾杯に移り、太田耕蔵第2代代表より、当会の旗印、「輪、話、和、倭」にプラスし感動の「わっ」を大切にしていますますます発展させて行きましょう、とご発声の音頭を取っていただき宴が始まりました。



太田第2代代表 乾杯の音頭

林区長、酒井先生、ベテラン会員、新人会員が会場のあちこちで思い出話や今後の学習など合い語り、そして大いに飲み、大いに食べ、活気に満ちた会場になりました。

宴たけなわになったころ、今回初めて金沢区に關係するクイズ勝ち抜き戦が豪華賞品？楽しい賞品付きで行われました。皆郷土の会の本領を發揮して戦い、クイズを楽しみました。

和やかな語りも尽きませんでした。18時40分頃会場の都合もあり、岡本茂男第4代代表に①発展、②隆盛、③長く続く、の3本締で締めて頂き、盛況のうちに15年の重みを感じさせる和やかな記念パーティーが開きとなりました。そして次の20周年記念を会員全員が元気で迎えらることを祈念する次第です。



金沢歴史クイズ勝ち抜き戦



岡本第4代代表 3本締め

学習会の概要とアンケート結果

第4回 「大橋新太郎と金沢」

開催日：平成25年8月10日（土）

場 所：県立金沢文庫 大会議室

講 師：金沢文庫ボランティア解説員・郷土史研究家 酒井 宣子

出 席：118名（ビジター43名）

会員出席率：61.8%

概要

1. 出自・履歴

父の大橋佐平は越後・長岡の酒屋「三国屋」を経営する町人ながら因習や習慣にとらわれない自由人。政治活動をしたり、大橋書店から新聞を発行したりしていたが、明治19年51歳で単身上京。同20年出版社「博文館」を創設。最初に発行した「日本大家論集」の大ヒットをはじめ、出版事業で大成功した。明治34年67歳で没す。

大橋新太郎は文久3年(1863)長岡で父・佐平、母・松子のもとに生まれる。明治17年22歳で柳沢やま子と結婚し、翌年長男・進一誕生。明治21年26歳の時妻子を伴い上京、弟や他の縁者と共に佐平の出版事業を発展させると共に他の事業の経営にも手広く当たる。明治30年9月やま子と離縁し、10月横田須磨子と再婚する。明治35年には衆議院議員に当選。大正15年貴族院議員に勅選される。昭和元年、この時の貴族院議員の正装に身を包んだ肖像写真が今企画展の入口正面に飾られている。レジュメに添付されている略年表で分かるよう

に実業界だけでなく政治・文化等広範囲で活動した。昭和19年82歳で没す。

2. 金沢の別荘と土地取得

東京近郊に別荘を構えようと物色し、伊藤博文の野島別邸や永島家、柴入口の井伊直安の別荘を見て金沢の海岸が気に入り、

- 明治38年子爵・井伊直安(元越後与板藩主・直弼3男)の別荘1,090坪を買い取る。
- 明治39年、製塩業の廃止で広大な空き地や耕作地となっていた洲崎原、町屋原3,672坪を入手。
- 明治40年、廃寺となった海岸尼寺の跡地を含む日向山の東側から南側、現在の寺前から金沢町、柴にかけて7,784坪を入手するが、元の住民の移転や土地買取り・整備、測量等に手間取り登記は大正10年となっている。この頃の土地図面や領収書が岩室家古文書としてレジュメに添付されている。
- 大正5年、現文庫小の南側、寺前の5,666坪を購入。

○ 大正 12 年、泥亀新田を開いた永島家 9 代目で負債を抱えていた亀代司より泥亀一帯 172,452 坪を買い取り大橋新田と改称した。

3. 金沢における事業

○ 金沢別荘の新装

海岸尼寺の跡地を含む日向山の東側から南側の地に新しく大橋家別邸を造るための造成工事や新築工事、造園工事が行われた。建築は北海道から名工横山氏呼び寄せたが、屋根葺きは講師の祖父岩室銀蔵氏、造園は富岡の植周などを中心に地元の職人を大勢使った。多くの使用人が家族共々近くに移り住んで賑やかな町になった。本格的茶庭と茶室の松雲庵や残月亭は牡丹園と共に見事なものであった。また養鶏場、ゴルフ場なども造った。

○ 金沢文庫の再建

昭和 3 年、関東大震災で被害の大きかった県立金沢文庫の再建にあたり、復興後は県が永久に維持することを条件に再建費用 10 万円のうち 5 万円を寄付した。また仏像の修理や台座、陳列ケース、大橋コレクションの一部等寄進した。

○ 称名寺の再興

明治末から大正初めに不祥事があつたり、大震災の被害も大きかった称名寺の再興に 200 円を寄進した。また、須磨子夫人は鐘楼を再建した。

○ 関東大震災の遺体処理

関東大震災後、金沢の海岸に流れ着いた多くの土左衛門（水死体）を須磨子夫人が中心となって薬王寺の裏に仮埋葬し、龍華寺で 10 年忌の法要を営んだ。龍華寺にこの間のいきさつを書いた須磨子の記念碑が

ある。

○ 実時 660 年遠忌・百番救世観音と八角堂の開眼

昭和 10 年、北条実時 660 年忌に当たり、称名寺の西側から金沢山、稲荷山、日向山にかけて西国 33 体、秩父 34 体、坂東 33 体の石仏 100 体観音を奉納した。石工は長岡の諸橋氏。また山頂に八角堂を建立し、長浜観音を本尊とした。10 月 20 日稚児行列を連れ、賑やかに開眼供養が行われた。実時の墓を含め巡拝コースとして金沢の新名所となったが、第 2 次大戦中は要塞地帯となり、一般人の立入は禁止された。

○ 日本製鋼所に土地売却

昭和 8 年、軍需工場の日本製鋼所に地元民の雇用を優先する条件を付けて大橋新田の一部(現ダイエー周辺)15,321 坪を工場用地として売却した。他に洲崎、町屋、泥亀、寺前に工員寮などの土地を合わせると合計 30,000 坪を手放している。

以上が酒井講師の話のまとめであるが、大橋家のご子孫や酒井講師の教え子、金沢文庫学芸員の話があったので簡単に紹介していきます。

○ 小山嘉子さん（大橋新太郎の孫）：子供のころは姉の保子さんと金沢で過ごした。講師の岩室(現酒井)さんとは幼馴染である。祖父新太郎には遊んでもらったことが無い。

○ 大橋 清さん（大橋新太郎の弟の孫）：「武家の古都・鎌倉」が世界遺産に再立候補して登録されることを希望する。新太郎が金沢文庫再建時に寄付した 5 万円は現在の貨幣価値では 3～5 億円になる。「広報かなざわ」掲載の須磨子夫人の写真は写りが悪く実際はもっときれいで「日本近代美人伝」

の掲載写真は“デートリッヒ”に引けを取らない。

○ 菊地さん（酒井講師が大道小学校に初めて教員として赴任した時の教え子、今回来場5名の代表）：56年ぶりに岩室（現酒井）先生の授業を聞いた。郷土史の研究や玉堂別邸の保存ボランティア、現役の画家として活躍される先生を尊敬します。

○ 梅沢 恵さん（金沢文庫・学芸員）：大橋新太郎生誕150周年記念企画展「ほとけのすがた」（前期）「ふみのかたち」（後期）の簡単な紹介と大橋新太郎コレクションの

話。中国やチベットの仏画や壺など国際的である。現在、黒田記念館蔵の重要文化財・黒田清輝の「湖畔」や京都国立博物館蔵の雪舟の屏風絵なども大橋コレクションだったのに驚かされた。

展示「ふみのかたち」を見学した後、17時から横浜市大シーガルホールで酒井講師や金沢区長にもご参加頂き“わ”の会創立15周年記念パーティーが執り行われた。（相川記）

アンケート結果

①講演内容評価

大変良かった：23 良かった：13 普通：2 つまらなかった：1

②コメント

- ・大橋新太郎という人物を知ることができた(18)
- ・内容が身近でわかりやすかった(11)
- ・新太郎のお孫さんのサプライズ出演もあり良かった(5)
- ・別荘地売買の実態がわかった(2)
- ・話を途中で端折らないでほしかった(1)
- ・称名寺が人間くさく、カネが文化を創ることもわかった(1)
- ・この地域が頭脳集団だったことに驚いた(1)
- ・新太郎の偉さがしめされていない(1)
- ・話の年代や内容が錯綜していた(1)
- ・ご自身の家系と境界の自慢話になった(1)
- ・評価のしようもない(1)



酒井 宣子 氏

第5回 「瀬戸神社の神事と行事」

開催日 平成25年9月14日(土)

会場 金沢地区センター 大会議室

講師 瀬戸神社 宮司 佐野 和史 氏

出席 93名(内ビジター2名) **会員出席率** 75.2%

概要

「一番古い神社はどこですか?」という質問がよくあるが、神社の場合はその起源の明確な記録が残っていないため明確な答えが出せない。

瀬戸神社の場合も鎌倉に幕府を開いた源頼朝が伊豆での挙兵にあたって御利益を蒙った伊豆三島明神の分霊を瀬戸の地に勧請しお祀りしたのが起源とされているが、実際は神社の隣接地からすでに古墳時代には祭りが行われていたことを証する祭祀遺物が出土している。古代の人は水流の険しい「せと」を罪穢れを流し去ってしまう神聖なところであるとして、豊かな幸をもたらしてくれる神々をここに祭った。これが瀬戸神社の起源と考えられる。

古来、日本人は自然の山や岩、木、海などに神が宿っていると信じ、信仰の対象としてきた。村中の人々が豊作、豊漁を神に祈る場所として神が鎮座される場所として神を招くための巨木の周囲に玉垣をめぐらして注連縄で囲うことで神聖を保った。その場所を神籬(ひもろぎ)と呼んだ。その後だんだんと恒久的な社殿を作るようになってきたと考えられる。

「まつり」の制度としては

①律令・格式で決まったまつりとして、日

本の古代からのしきたりを養老令・延喜式でまとめたもので、例えば仲春の祈年祭(1年かけて稲が豊かに実ると共に、この1年間無事に生きることが出来る様にお祈りする)や季秋の神嘗祭(今年収穫できた米を神にお供えする)など四季折々の宮中や神社の祭りが有る。

②町衆のまつりとして祇園祭や天王祭など神輿、山車や屋台などをお囃子と共に街に繰り出す祭りが有る。この祭りは流行・伝播していくものである。

つまり「まつり」とは“まとめる”ことであり神と人、地域の皆の気持ちを一つにしてゆくことである。

瀬戸神社の祭りとしては

・正月：歳旦祭(1月1日)

午前零時の時が告げられると同時に鶏の鳴き声で新年を迎える行事で、天岩戸に隠れた天照大神を呼び戻すために鶏の鳴き声で誘い出し、再びこの世に太陽が輝いたという故事にちなんだ神事。

・三月：祈年祭・合祀神例祭(春分の日)

今年の米の実り、生命の更新を祈る

・五月：例祭(5月15日)

神社本庁より献幣使が派遣されて執

り行われるもっとも大切な神事。この例祭に伴う特別の行事として琵琶島神社神幸祭が行われる。

- ・七月：天王祭（7月中旬の日曜日～日曜日の8日間）

牛頭天王を祀る祭り。京都の「祇園祭り」が有名で全国にその祭りの形式が伝播していったと考えられる。

3日目の夜には「三つ目神楽」が執り行われるがこの神楽は鎌倉時代にさかのぼることが出来る。「巡幸祭」は最終日（第2日曜日）に病気をはじめ、人間の悩み、苦しみを祓い清めて下さる神様に氏子の住む町内を

御神輿で巡幸いただく趣旨のまつりである。この時には各町内でも屋台・山車の上でお囃子が賑やかに打鳴らされ、大人・子供の神輿で終日賑わう。

- ・十一月：新嘗祭（11月23日）

宮中では、天皇陛下から新穀を神さまに捧げ、その年の収穫を感謝する新嘗祭（にいなめさい）が執り行われ、全国の神社でも斎行される。

- ・十二月：年の市（12月8日）

境内に熊手・達磨などの市が立つ。

（吉田寿 記）

アンケート結果

①講演内容評価

大変良かった：18 良かった：13 普通：2 つまらなかった：0

②コメント

- ・神社と祭りについて納得できる話が聞けた（12）
- ・宮司の豊富な知識と話しぶりに引き込まれた（9）
- ・神社の深層に迫り関心大であった（2）
- ・これから神事に楽しく参加できそうだ（2）
- ・神事の詳細が理解できた（3）
- ・なにげない毎日の生活がいかなる理由で行われているか分かった（2）
- ・普段使っている言葉の意味や死語となった語源を知ることができた（2）
- ・知識が広がり大変勉強になった（2）
- ・映像が理解の上で役立った（1）
- ・レジュメと映像が合ってなかったのが残念（1）
- ・知らないことを教えてもらったが身に付きそうにない（1）
- ・専門的すぎて理解しにくい面があった（1）



佐野 和史 氏

「懐かしの映画」鑑賞録 No.12

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 25 年度第 11 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2013. 9. 9〉

オーケストラの少女 One Hundred Men and a Girl

製作：1937 年 アメリカ

上映時間：84 分

監督：ヘンリー・コスター

原作：ハンス・クレーラー

出演：ディアナ・ダービン、アドルフ・マンジュー、レオポルド・ストコフスキー

（あらすじ）

ストコフスキーが指揮するチャイコフスキーの第 5 交響楽に満場の聴衆は聞き惚れている。楽屋口では失業楽師のジョン（A・マンジュー）がストコフスキーに就職を頼もうと待ち構えているが、すげなく断られる。すごすごと帰るジョンの足元に財布が落ちていた。悪いこととは知りながら財布の金で溜まっている部屋代を払う。娘のバツイ（D・ダービン）もアパートの人たちも皆、ストコフスキーの楽団に採用されると勘違いして祝福する。声楽家を志している娘の喜ぶ姿を見て、ジョンは本当のことが言えない。翌日、ジョンは練習に行くふりをして家を出た。バツイは父親の練習風景をみたいと楽団に行くが、父親が嘘をついていることを知った。ジョン

は泣きだしたバツイに真相を話す。バツイは落とし主のフロスト夫人に財布を返しに行き、パーティーの最中だったが夫人に真相を話す。歌が好きだというバツイに歌を所望するとその歌声の素晴らしさに皆は感嘆する。そして、失業中の父親を救うためオーケストラを作りたいと話すと、夫人はメンバーが揃ったら後援すると約束してくれた。バツイから話を聞いたジョンは早速、100 人の失業中の音楽家を集めて交響楽団を組織し、次の朝から倉庫を借りて練習を開始した。倉庫の借り賃などの金を貰いにバツイはフロスト夫人を訪ねると気まぐれな夫人は欧州旅行に出発して留守だった……

（解説）

この映画が日本で公開されたのは、1937 年（昭和 12 年）12 月で、[日中戦争]が始まって半年後の頃である。映画館に詰めかけた多くの観客は、暗く重い現実をしばし忘れて、可憐なディアナ・ダービンの歌声に酔いしれたのである。当時、ドイツではナチスが力を強め、多くの映画人が自由を求めてドイツを脱出し、アメリカに渡った。この映画の監督のヘンリー・コスターもその一人で、ヨーロ

ッパを転々とし、ハンガリーで出会ったユニバーサル製作者ジョー・パスターナクとともに 1936 年に渡米した。二人はたまたま観た短編音楽映画でディアナ・ダービンの才能を見抜き、同年『天使の花園』を製作、ダービンを一躍スターの座に押し上げたのである。その二人が続いてダービンを主役に「オーケストラの少女」を作り、ダービンの屈託のない明るさはその澄んだ歌声とともに人々に夢

を与えたのであった。指揮者ストコフスキーを演じたのはフィラデルフィア管弦楽団の指

揮者レオポルド・ストコフスキー本人で、アメリカ随一と謳われた名指揮者である。

平成 25 年度第 12 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2013.9.23〉

リオ・ブラボー Rio Bravo

製作：1859年 アメリカ

上映時間：141分

監督：ハワード・ホークス

音楽：ディミトリ・ティオムキン

出演：ジョン・ウェイン、ディーン・マーティン、リッキー・ネルソン
ウォルター・ブレナン、アンジー・ディキンソン

(あらすじ)

メキシコ国境に近い町、リオ・ブラボーの保安官チャンス（J・ウェイン）がならず者ジョー（C・エイキンス）を殺人の現行犯で捕えると、町のボスでジョーの兄のネイサン（J・ラッセル）は大勢の部下とともに町を封鎖し、ジョーの引き渡しを求めた。チャンスは断固として断るが、実力で奪いに来た場合、味方は、アル中の助手デュード（D・マーチン）と足の不自由な老人スタンビー（W・ブレナン）の二人だけである。見かねたチャ

ンスの友人の幌馬車隊の隊長が助っ人を集めてみたが、逆にネイサンの手下に殺される。それを見た幌馬車隊の護衛のコロラド（R・ネルソン）が保安官となってチャンスの部下になり、4人でネイサンに対抗する。それに、チャンスに惚れている女賭博師のフェザース（A・ディキンソン）が味方に付いた。

持久戦が続くうちに、デュードが敵に捕えられ、殺人犯ジョーと捕虜交換となった……

(解説)

舞台はメキシコ国境に近い、無法者が闊歩するテキサスの町、リオ・ブラボー。保安官チャンスを演ずる J・ウェインが敢然として悪に立ち向かう。まさに西部劇の王道である。1952年、フレッド・ジンネマンが作った西部劇の名篇「真昼の決闘」は保安官のゲーリー・クーパーは市民の応援を求めるが、断られ、新妻と共に悪に立ち向かう映画である。監督の H・ホークスは「本物の保安官は町を走り回って市民に助けを乞うものではない」と言ってこの映画を認めず、あるべき保安官の姿を J・ウェインを通して描いたのである。ホークスは「赤い河」(1948年)で J・ウェインと組み、J・ウェインを西部劇の大スターとして育て上げたが、この映画では、J・ウェインの保安官は仲間とともに悪に立ち向か

い、相手を滅ぼすのである。仲間の保安官には歌手として人気の高い D・マーチンを起用し、また、二丁拳銃の若者コロラド役には当時 18 歳のアイドル歌手、R・ネルソンを抜擢した。足は不自由だが口の達者な老看守スタンビーには西部劇の名脇役 W・ブレナンを配し、緊張感を和らげる役割を与えた。女賭博師フェザース（A・ディキンソン）とチャンスの不器用な恋もほほえましい。西部劇の音楽を数多く手掛けた D・ティオムキンは、この映画では「赤い河」の挿入歌の「ライフルと愛馬」を D・マーティンと R・ネルソンにデュエットさせ、トランペットを有効に使った「皆殺しの歌」も決戦前の雰囲気盛り上がらせた。

「浮雲俳句会」抄録 No.23

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

【 秋 : Autumn 】

俳句における「秋 : Autumn」は、立秋（今年の場合8月7日）から立冬（今年の場合11月11日）までの約3ヶ月間である。

この秋の3ヶ月は、「三秋」といって、初秋・仲秋・晩秋に分けられる。「初秋」は最初の1ヶ月（おおむね陽暦の8月）で、日中は暑いが朝夕は涼しさを感じるようになる。夏休みも終わり、法師蟬や蝸が鳴く日々となる。「仲秋」は、おおむね陽暦の9月ですっかり秋らしくなる。仲秋の名月を仰ぎ、彼岸をすぎるところになると、露の季節に入ってゆく。「晩秋」は、秋深し・暮の秋ともいい、ゆく秋に名残を惜しむ。稲刈りや紅葉狩りなどもたけなわになり、夜は“夜長”で燈火親しむ読書の秋になる。

続いて、ご当地俳句で、わが金沢区の「秋 : Autumn」に、焦点をあてておこう。

この点、歌川広重の描いた8枚ものの『金沢八景絵図』は、その最後の「内川暮雪」を除いて、7枚総ての絵図が、わが金沢区の「秋 : Autumn」を題材にしている。

① 洲崎晴嵐（すぎきせいらん）

（絵図）…画面中央部の大きな樹は、「晴嵐」に揺れているようだ。また画面下部の筏は、風に流されたのか。懸命に陸へ押し戻しているようだ。

（和歌）…賑へる洲崎の里の朝けぶり晴るる嵐にたてる市人〔作・京極高門（以下同じ）〕

（俳句）… **野分過ぎ洲崎に戻る朝の市**〔作・一清（以下同じ）〕

② 瀬戸秋月

（絵図）…仲秋の名月も十五夜が近いのか、月明かりと月影のコントラストが、絵全体にインパクトを与えている。

（和歌）…よる浪の瀬戸の秋月小夜更けて千里の沖に澄める月影

（俳句）… **寄る波の瀬戸の小夜更け小望月**

③ 小泉夜雨（こずみのやう）

（絵図）…遠くに見えるのは瀬戸神社の森か。注目すべきは2人の里人。2人を巧みに描き分けているのは、広重の筆技だ。

（和歌）…かちまくらとまもる雨も袖かけて涙ふる江のむかしをぞ思ふ

（俳句）… **愁思いま「小泉の夜雨」の舵枕**

④ 乙艦（おつともの）帰帆

（絵図）漁を終えた白帆の舟が、滑るように湊に帰っている。海も山も色調の濃淡によって遠近感をはっきりと描写している。

（和歌）…沖津舟ほのかに見しもとる梶の乙艦の浦にかへる夕波

（俳句）… **秋風や帰帆はるかに乙艦へ**

⑤ 称名晩鐘

（絵図）…入江ごしに金沢山を望み、その中腹には名利・称名寺の伽藍堂塔が配され、夕暮れの梵鐘の音が響き渡っているようだ。

（和歌）…はるけしな山の名におふかね沢の霧よりもるる入あひのこゑ

（俳句）… **称名寺一打の鐘に秋惜しむ**

⑥ 平潟落雁

（絵図）…近景の中州に10数人の里人の姿をクローズアップ。空に2棹の雁のれつを対比、人と雁のコラボレーションをリアルに表現している。

(和歌) …跡とむる真砂に文字の数そへてしほの干潟に落つる雁がね

(俳句) … **平潟の干潟に落つる雁の声**

⑦ 野島夕照

(絵図) …広重の絵には、屋形船を前景に、画面中央には野島百軒をクローズアップしている。

(和歌) …夕日さす野島の浦にほす網のめならぶ里のあまの家々

(俳句) … **秋夕焼け野島百軒照らしけり**

《71回例会 H25年7月28日》

〔 秀作 〕

天賞

海の日や海軍「五省」古びざる 一馬

兼題<海の日>を深化させる秀作。<海軍「五省」>は、むかし海軍兵学校で使っていた5つの訓戒…至誠に悖(もと)る勿かりしか。言行に恥づる勿かりしか。気力に欠くる勿かりしか。努力に憾み勿かりしか。不精に亘る勿かりしか。これは現在、アメリカのアナポリス海軍兵学校でも使われている5つの訓戒である。

地賞

墓我があばら屋を寝ずの番 三旦

兼題<墓がまがえる>を端的に描写した秀吟。<墓>は、わが国の蛙のなかで最大クラスの12cmほどもある。冬は土の中にもぐって冬眠し、初夏に出てくる。グロテスクで鈍重・動作も鈍い。しかし、それがかえって、人間らしく、秀句の多く出ている季語だ。

いずれにせよ、<墓>に我が家の<寝ずの番>をさせ、愉快千万。心地よい佳句だ。

人賞

あめんぼう三角函数解きにけり 勇平

ユニークな取り合わせで深層に迫る当季雑詠。<水馬あめんぼう>は、1.5cmほどの細長い灰褐色の虫。池や小川の水面を6本脚で、立って滑走する。「身は水につかず、水上を駆けること馬のごとし。これによって水馬と名付けた」といわれている。長い脚を巧みに使って滑走する姿が特徴。

このような<水馬>の深層を<三角函数>を使って<解き>あかそうというのである。結果や如何に。

〔 特選 〕

海の日や地球儀回し喜望峰	二祥
海の日や大漁旗たて船帰る	重九
海の日や旗翩翻と潜水艦	国眼
海の日やオール揃へて波を掻く	一幸
ばつたりと互ひに見合ふ我と墓	とも女
油然たる水面の雲を蛇の首	十九
源平池葉をぬきん出て古代蓮	好童

《72回例会 H25年8月25日》

〔 秀作 〕

天賞

天翔けて太平洋をごめ帰る 一馬

海洋俳句シリーズ2回目の兼題<太平洋>にダイレクトにアタックした好吟。<太平洋>は、世界最大の海洋で、全海洋面積の二分の一・全地表面積の三分の一を占める広大な海である。

一方、<ごめ>即ち海猫は、かもめ科の海

鳥。鷗よりやや大きく、背・翼は青みがかった灰色で、腹は白く、尾羽に黒帯がある。鳴き声が猫に似ているので、海猫の名がある。青森県八戸市の蕪島は、その繁殖地として有名。漂鳥即ち日本国内を季節によって移動する鳥のグループである。

この海猫が、<天翔けて>広い太平洋を移動しているのだ。まさにスケールの大きさを痛感する。

地賞

太平洋しんがりとなる帰燕かな 勇平

<太平洋>と野鳥のかかわりに迫る佳句。つばめは、夏になるといち早くやってくる夏鳥。おなじみの燕尾服姿で、日本列島で繁殖し、秋になると、<太平洋>を南方に帰ってゆく。その渡りの前には、葦原に、ときには数千羽も集結するという。

天賞・地賞とも、野鳥（つばめ）たちが、<太平洋>をおおいに利用していることを物語っている。

人賞

かまきりの仏間狭しと這ひ回る 国眼

<かまきり>の生態をよく捉えた写生句。<かまきり>は、鎌切・いぼむしり・螻蛄などともいう。体長8cm位。草色または緑色で

細長く、頭は逆三角形、眼は複眼で上辺にある。前脚が鎌のようになっていて、獲物をはさみ込むことができる。

この<かまきり>。<仏間>に迷い込み、慌てて<這い回>ったというのだ。<かまきり>の逃げ惑う必死な形相と、季節感がよく描写されている。

[特選]

夕蜻蛉仙石原を埋め尽くし	三旦
宙に浮く蜻蛉に静止幼の目	とも女
藤は寒に幾百となく垂るる莢	重九
蛸や残照惜しむ仁王門	十九
盆の月幽かに聞こゆ父母の声	祥代

《73回例会 H25年9月22日》

[秀作]

天賞

富士を背に秋鯖漁の伊豆の海 二祥

兼題<伊豆の海>を主体的に捉えた秀作。<秋鯖>は、“秋鯖嫁に食わずな”といわれるくらい、脂がのっておいしい。この<鯖>は回遊魚。春ごろ伊豆半島沖で産卵。その後北上してプランクトンの多い北海道沖へ。秋になって三陸沖→銚子沖→伊豆沖と南下。これが<秋鯖>だ。

地賞

秋燈下「はだしのゲン」を読み返す 一馬

読書の秋を実証する高吟。中沢啓治作の原爆被爆体験者の自伝漫画（全7巻）である。戦中・戦後の激動期を必死に生きた主人公・中岡ゲンの姿を描いたもの。なお、この作品は、映画やテレビドラマとしても制作。目下、作品発表40周年ということもあって、世間の話題になっている。

人賞

伊豆の海空澄む先に島七つ 一祝

大景を一物仕立てでリズムよく詠み切った佳句。<島七つ>は伊豆七島のことである。北から大島・利島・新島・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島である。伊豆七島は広義においては、「伊豆諸島」とも呼ばれ、東京から650キロ、100余りの島々からなる。なお、八丈島以北は、富士箱根伊豆国立公園に属している

[特選]

菘日和釣り船漕ぎて葉山沖	一幸
魚籠の中菘何回も跳ねるたり	好童
晩鐘の余韻深まる紅葉山	十九
秋分や下駄を鳴らして擬声音	国眼
彼岸花痺れの切るる読経かな	勇平
竹の春あちこちありき報国寺	祥代
句作りに四苦八苦する残暑かな	岩介

「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 NO.3

「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣 悦男

「ふれあいの道歩こう会」は以前より8月は定例会を休会にしている。特に今年の暑さは程度を超えており、会員は8月の休会を十分得心している。9月は残暑厳しい折とはいえ、箱根山中へ涼を求めての滝めぐりは好評であった。また、10月は一泊での東北地方へ。1日目は、世界遺産の平泉・中尊寺を訪ね、2日目は、栗駒山(標高1627.4m)への登山。栗駒山は安山岩でできた成層火山で活火山に指定されており、宮城・岩手・秋田の3県にまたがっている。紅葉のみごとさを堪能する予定だったが台風24号の影響でこの方面も荒天が予想されたため中止とした。残念至極であった。よって今回は独自コース7番だけの掲載となった。

独自コース7番 箱根山中名瀑に行く

実施日：平成25年9月19日 晴れ 参加者：19名

所在地：神奈川県足柄下郡箱根町

行程：○箱根登山鉄道小田原駅改札 集合～小田原駅出発 約1時間～小涌谷駅。

○コースタイム：小涌谷駅10:10～10:30 千条の滝(準備運動)～浅間山～鷹巣山(鷹巣城跡)～飛龍の滝～14:00 畑宿(一里塚史跡を見学)～バス・電車 15:23 小田原駅着(解散)
歩行時間：約4時間

箱根ハイキング

夏の花と、秋の花が混じり合い季節の移ろいを感じたハイキングだった。花は、アジサイ・ツユクサ・アザミ・ヒガンバナ・ススキ・ミズヒキ・シャジン・ゲンショウコ・イノコズチ。一番高い鷹巣山(標高：834m)の山頂には、秀吉の小田原攻めに備えて、後北條氏が築城した諸城のひとつ鷹巣城があったと伝えられている。

ハイキングの終点は寄木細工の里、畑宿。史跡旧東海道の一里塚を見学。畑宿は江戸時代の石畳が残されている、自然探勝歩道入口でもある。

天高し足並み揃ふ箱根路

箱根ハイキング 滝が見事！



千条の滝



飛龍の滝

掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願い致します。

小俣 悦男 ○メールアドレス：e-omata@mx2ttcn.ne.jp ○電話番号：045-782-8147

定例会概要に載っている写真は全て“わ”の会のHP「ふれあいの道独自コース」にカラーで写真が載っています。

中高年のゆったり登山

<いつまでも楽しく続けるために>

「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣 悦男

「ふれあいの道歩こう会」は来年1月に創立11年目に入る。また、5月に山行回数が100回になる。そこで、9年間の「関東ふれあいの道」、1年間の「独自コース」を歩いた経験をもとに、ハイキングや登山がいつまでも楽しく続けられるように以下の如く纏めてみた。ハイキングや登山愛好家に少しでも参考になれば幸いである。

1. 装備・携帯品で特に注意すべきもの

- ・下着一吸汗、速乾性にすぐれたもの。汗をかいても歩いている内に乾く。
- ・靴—山道はしっかりしたもの。ハイカットは足の保護ができる。
- ・ズボン—よく伸び縮みするもの。ジーンズは論外。足を痛めることあり。
- ・ストック—中高齢者には必需品。足への負担を軽減できる。
- ・古い靴紐、応急薬（芍薬甘草湯・バンドエイド・包帯など）
- ・自転車の古チューブなどで作った1m弱の太めのゴム紐。足が攀ったときに該当箇所を強く縛ることで効果あり。靴に巻いて滑り止めにも使える。

2. 登山・下山時の注意

- ・登山開始前のストレッチは入念に。省略してこむらがえり（筋肉が攀るまたは痙攣する）などのケースも。
- ・水分補給はこまめに（30分間隔位に）。熱中症やこむらがえり予防に役立つ。



- ・歩幅は小さめに（特に下山時）。
- ・下りにかかる時は靴紐の締め直し、ストックの長さ調節。
- ・事故の7割は下山の時。特に午後2時頃が最も危険な時間帯。
- ・3点支持（岩場のみならず、ちょっとした崖の道でも両手・両足の内、必ず3点で身体を支える）
- ・下りは筋肉痛になり易いので要注意。ストックの活用で足への負担軽減。
- ・前の登山者との間隔は大きく。巻き添事故防止のため。
- ・対向者、追越し者に道を譲る時は必ず山側で待つ。万一の転落予防。

3. トレーニング（楽しい登山、又他の人に迷惑をかけないために）

- ・両脚スクワット（週何回か習慣づける）
- ・階段を2段ずつ上る（できるだけ）。
- ・腕立て伏せ（ストックを使いこなす腕力強化）

4. 登山の効用

- ・登山は全身運動、全身の筋肉を総動員。
- ・登山は有酸素運動。有酸素運動で血のめぐりが良くなり、体の中が若返る。
- ・さらに記憶力強化やアルツハイマーの予防にも役立つ。
- ・足は「第二の心臓」。歩くことにより血液の送り出しが増加。
- ・下りは「糖尿病」予防に効果大。上りは脂肪分の代謝活発化。
- ・登山はメタボ対策。他の運動ではこなしにくい運動量を長い時間楽しみながらでき。

幕末役人の絵入り旅日記

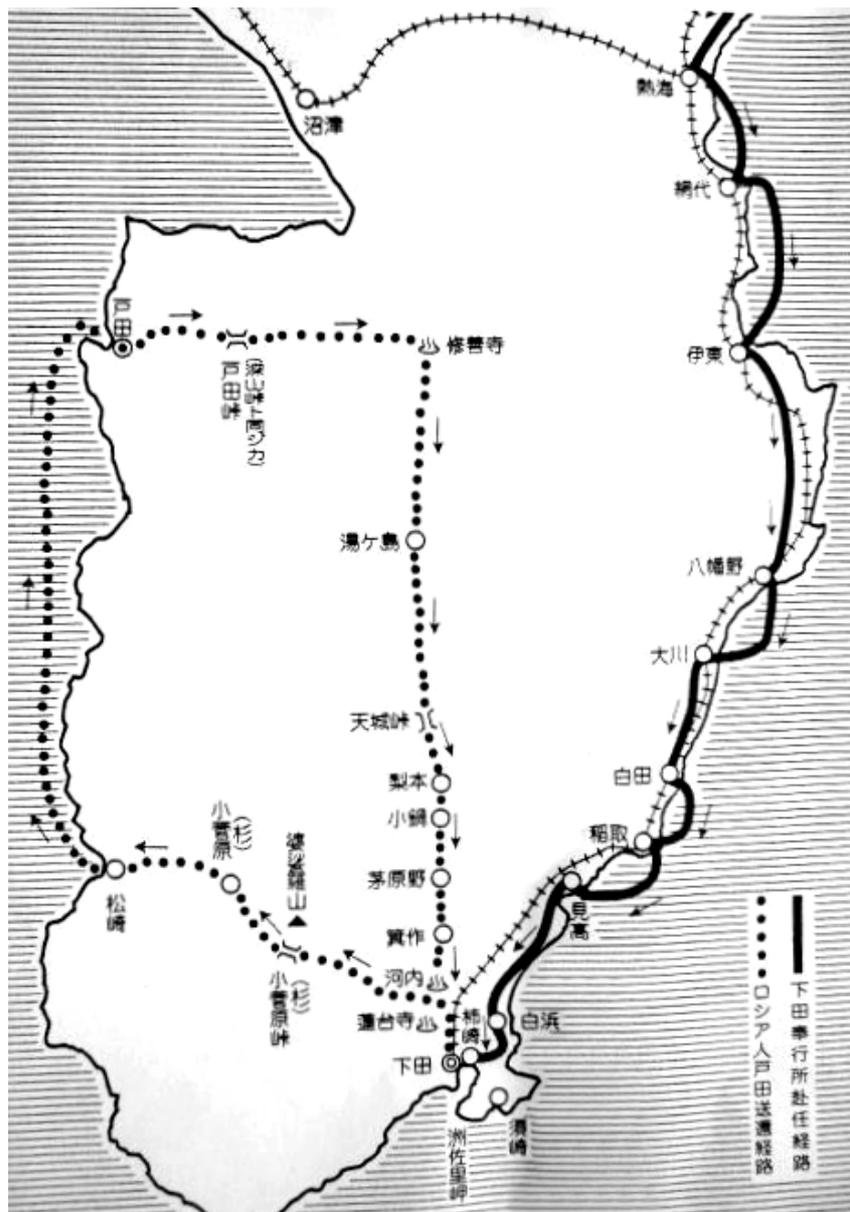
「古文書を読む会」代表 真田 雅行

昨年から今年にかけて当会で読んだ伊豆半島『旅中日記』は大変異色且つ興味あるものでしたので、以下に概要を解説致します。

著者「加藤祐一」は幕末の安政元年（1854）11月27日から同2年1月29日までの約2か月間、幕府から下田奉行の下役として、江戸から下田出向を命じられた下級の幕臣で、日米和親条約批准を中心とする多彩な外交交渉の実務を下田で担当し、それを中心に公文書では通常みられない個人の感情を交えながら随所に挿絵を入れて私的に綴ったのがこの『旅中日記』であるが、短期間の割には内容は実に多岐にわたっている。

時あたかも（1）ペリー艦隊が来航、久里浜で国書を受理（嘉永6年6月）した後、
（2）横浜での日米和親条約締結（安政元年3月）、ついで
（3）本件の下田での批准書交換（安政2年1月）を経て
（4）横浜の開港（安政6年6月）へと歴史は動いていく。

出張中の著者の足取りは図の通りほぼ伊豆半島一周で、以下はそのハイライトである。



道中日記参考図（伊豆半島）

① 12月3日、熱海で村役人より11月4日の下田地震、大津波及び昨2日ロシア船ディアナ号大破の話の聞く。

② 12月9日、下田着任後4日目にかつてペリー艦隊の主力艦だったポーハタン号が下田入港。著者らが連絡に訪れるが、船内の様子をイラストで説明。

③ 12月12日、フランス鯨猟船が入港したが、敵国ロシア人がいることを知り急ぎ出港。嘉永6年ロシアがトルコへ南進を図って始まったクリミア戦争で、イギリス、フランスがトルコに味方し最終的にロシアが敗北したが、この国際紛争の影響で日露和親条約を求め下田にディアナ号で来航していたロシアの乗組員が色めきたち、あわや一騒動の一幕だった。

④ 12月21日、長楽寺で日露和親条約調印。

⑤ 12月28日、下田地震で大破したロシア船ディアナ号（船長プチャーチン）は修理のため500人を乗せ半島廻り戸田へ航行中、遠州宮津沖で難風に遭い沈没。新造のこととなり、残りのロシア人を戸田へ送還付添のため山越え、難風で苦労しつつ松崎経由海路戸田へ着いた。

翌29日は逆に快晴。海上穏やかになり、戸田湊に寄ってくる大量の鰯（ぶり）、いなだに海面がざわざわ。さながらむく鳥が飛ぶがごとくに群らがつているのが宿の二階からよく見えたという。当時の魚類の豊富な様子が伝わってくる。

⑥ 安政2年1月5日、長楽寺で日米和親条約批准書交換。条約文は著者が筆記。これを将軍や大統領も見ると感激。後刻ポーハタン号で饗応に招かれ、料理のこと等がくわしく記されている。

⑦ 1月27日、アメリカ捕鯨船カロライン・フォート号が下田入港。婦人3人、子供2人なども上陸するが、外国女性が日本に上陸したのは鎖国以

来はじめてのことだったという。これが話題になって幕府にも伝わったが、帽子やベール、衣服など絵で詳細に描写。



捕鯨船から上陸した婦人・子供の絵

なお、同船にはジョン万次郎と一緒に漂流し、助けられた虎右衛門（現地で妻帯）が同船でひそかに日本にきており、著者は船内で会ったと記す。

⑧ ロシアのプチャーチンはこのアメリカ捕鯨船にロシア人を乗せて母国へ返す契約を結んだが、しばらく日本に滞在を余儀なくされるアメリカの婦人、子供の日本滞在をめぐり、幕府とロシア間でもめにもめ、幕府はロシアの強硬姿勢に応じざるを得なかった。

⑨ 戸田からの帰路は戸田岬～修善寺～天城越え～梨本～下田で、岬では戸田へ向かう勘定奉行兼海防掛の川路聖謨と出くわしたと、修善寺では独鈷の湯に入ったが地震で湯口が塞がり湯がよく出ずぬるかったが、その他温泉は前より熱くなったこと、梨本では3百年の旧家に泊り、山間の大晦日をすごしたことなど、旅の途中で見聞した自然や風俗、習慣、名物、特産物などが臨場感あふれるリアルなタッチで描かれている。

金沢の仏教寺院（1）

「寺社を巡る会」 熊谷 哲

本稿は「金沢区民活動センター“ゆめかもん”情報誌『かな・インフォメーション』」に連載中のものです。“わ”の会の皆さんに読んでいただきたく、筆者と金沢区民活動センターのご了解を得て、本誌に転載するものです。今回は既連載の4回分を転載します。連載は全6回の予定ですので、5回と6回は次号での掲載となります。

—はじめに—

明治維新の初めには金沢区内には39の寺院がありましたが、明治元年(1868)に神仏分離令が施行され、それに関連した無住寺院廃寺令により21の寺院が姿を消しました。廃却された寺院の本尊等は残された寺院に移され、客仏として今も尊崇されています。

現在金沢区内には29の仏寺があります(内1寺は戦後の創建)。宗派別の内訳は次の通りです。

真言宗御室派：龍華寺(洲崎、準別格本山)、慶珊寺・宝珠院・持明院(何れも富岡)、正法院・金蔵院・満蔵院・自性院(何れも釜利谷)、宝樹院(大道)、染王寺(野島)、薬王寺(寺前)、寶蔵院(柴)、三宝寺(金沢町)。**臨済宗建長寺派**：長昌寺・悟心寺(何れも富岡)、太寧寺(片吹)、東光禅寺(釜利谷)、金龍禅院(瀬戸)。**曹洞宗**：禅林寺(釜利谷)、伝心寺(町屋)。**浄土真宗**：長生寺(六浦)。**浄土宗**：千光寺(朝比奈)、光傳寺(六浦)、天然寺(町屋)。**日蓮宗**：上行寺(六浦)、安立寺(町屋)。**臨済宗円覚寺派**：泥牛庵(瀬戸)。**真言律宗**：称名寺(別格本山)・光明院(何れも金沢町)。

金沢区内の真言宗御室派の寺院が13寺と集中して非常に多いのは全国的に極めて特異とされています。これは中世に六浦庄(ほぼ現在

の金沢区)が御室派総本山の仁和寺(京都御室にある)の子院勝宝院の寺領であったことによるとみられています。源頼朝の庶子貞暁(じょうぎょう)は正室の政子に疎んじられ7歳のとき仁和寺に入り出家しました。修行の後勝宝院の院主になっていました。貞暁の母は大進局(藤原時長の女)で、京都へ戻された際この六浦庄を頼朝から与えられましたが、貞暁がこれを継承していたものです。

我が国に仏教が伝来して1500年近くになります。「現世の彼方にある存在」との交流の場としての寺院は、長い年月、篤い信仰に支えられてきました。また、古い歴史に思いを馳せ、文化を語る上の拠点でもあります。区内の各寺院は仏教本来の諸活動の他、社会事業や文化活動を展開しておられます。

仏教関連の諸行事は我々の日常生活に深く浸透しています。金沢で一般的なものを下記します。

1月：初詣、七福神詣、初大師、初不動。2月：節分祭。3月：お彼岸。4月：花まつりと稚児行列。7または8月：お盆と盆踊り。9月：お彼岸。12月：除夜の鐘。

次に古い時代の仏像や歴史上の著名人に係る寺院をほぼ年代順に説明して参ります。

—奈良・平安時代造立の仏像—

○天平時代(奈良時代後期)の東大寺大仏が造立された頃の西暦750年代後期に造られた菩薩半跏像というという仏像が洲崎の龍華寺にあります。この像は光徳寺(室町時代に浄願寺と併合して龍華寺になった)の子院の福寿院の本尊でした。平成10年龍華寺の土蔵改築の際、庫内から頭・体・四肢が分離した状態で発見され

ました。岩座天板裏の墨書銘から寛延3年(1750)に施入されたとみられますが伝来の経緯は不明です。

研究者の調査により、この像が東大寺工房で造られた脱活乾漆造で、岐阜以



菩薩半跏像

東にはこの造の像が存在していなかったのが全国的に注目されました。脱活乾漆造は、粘土で成型した仏像原型の表面に糊漆をつけた麻布を数層貼り付け、乾燥後、粘土を除去、像表面を漆木屎で塑形する造像法。修理復元されました。横浜市指定文化財となっています。この造の仏像としては唐招提寺鑑真像や興福寺阿修羅像が特に有名です。

○龍華寺には平安時代造の寄木造の阿弥陀如来坐像(像高 24.5cm)があります。江戸時代に龍華寺と高野山の僧侶との交流の中で当地にもたらされたとみられています。横浜市指定文化財。

○平安時代後期(平清盛台頭前)造立の阿弥陀三尊像が大道の宝樹院阿弥陀堂に祀られています。神奈川県重要文化財。この像は常福寺の本尊でしたが明治初期廃寺になり宝樹院に移されていました。平成3年和田大雅住職の発願により、解体修理が行われました。その際に、顔面内部に納入されていた文書などから常福寺と三尊像が久安3年(1147)内蔵武直・妻の卜部氏・源氏により草創されたことが分かりました。内蔵氏は相模国国衙の有力官人で、六浦が武

蔵国にも拘らず鎌倉と一体化して相模国国司の支配下にあったとみられました。金沢・六浦



阿弥陀三尊像

の歴史認識に大きな影響を与えました。

修理願文が再封されました。願主には和田住職のほか檀家の小泉純一郎元首相の名もあります。

—源頼朝・範頼ゆかりの寺—

○龍華寺—源流は源頼朝が文覚上人と共に文治年間(1185~90)に六浦の山中に創建した浄願寺

洲崎にある真言宗御室派準別格本山。明応8年(1499)浄願寺と町屋にあった光徳寺とが併合され龍華寺となりました。浄願寺は上行寺東遺跡辺りにあったとされています。

永禄4年(1561)小田原北条氏を攻めた上杉謙信軍が龍華寺から奪去った涅槃図(1.6m 四方、茨城県重文)が土浦市の法雲寺にあり、図の軸木に納入されていた銘文から浄願寺の歴史が明らかになりました。

江戸時代には高野山などとの交流が盛んで、寺内の法談所では僧侶の養成も行われていました。久良岐郡内の御室派寺院の中核寺院としても機能していました。

寺には本尊の大日如来坐像のほか多数の仏像、仏具、梵鐘、仏画、数千点の聖教、古文書などがあります。真言宗や金沢の歴史研究にとって極めて貴重な文化財群です。

寺を支えたのは、創建頃は扇谷上杉氏の家臣(菅原資方・古尾谷重長・太田道灌など)、江戸時代は新田開発の成功者の永島氏でした。

○太寧寺と薬王寺—源流はこの地で自害した

源範頼(頼朝の異母弟)を葬った瀬ヶ崎の薬師寺



源範頼画像

源範頼は頼朝に疑われ建久4年(1193)伊豆の修禅寺に幽閉され、梶原景時の急襲で自刃したとされますが、逃れて瀬ヶ崎にあった自分の別邸に入り自害(伝)、別邸跡に建てられた真言宗の薬師寺に葬られたという。鉦切や追浜という地名やこの地に多い蒲、蒲谷姓は範頼が逃れてきたという伝承の証しです。薬師寺は範頼の念持仏の薬師如来と共に称名寺金堂東(称名寺絵図の無常院か)に移り、のち室町時代後期に薬王寺になりました。薬師寺が寺前に移ったので、正治年間(1199~1201)栄西が範頼の法名(太寧

寺殿)から臨濟宗の太寧寺を興し範頼の菩提寺にしました。

・太寧寺：瀬ヶ崎にあったが、戦争中海軍の施設建設のため片吹に移りました。臨濟宗建長寺派。本尊は薬師如来立像、脇侍は日光・月光菩薩(市文化財)。寺宝は範頼の位牌と画像(前頁図)。境内に範頼と家臣の墓という五輪塔(市文化

財)と小川笙船(赤ひげ先生)の墓があります。

・薬王寺：称名寺赤門前にある真言宗御室派。本尊は薬師如来坐像。寺宝は大日如来坐像、弘法大師像、聖観音菩薩像、金剛胎蔵両界曼荼羅図(市文化財)、範頼位牌など。範頼の命日の8月24日には三河忌として追善供養が営まれます。毎日朝夕6時に鐘の音が響く。

—畠山氏・北条氏・日蓮ゆかりの寺院—

○釜利谷の東光禅寺—源流は源頼朝の重臣畠山重忠が鎌倉に建てた東光寺(護良親王はここで弑逆された)

畠山重忠(1164~1205)が建仁年間(1201~04)に鎌倉二階堂に東光寺を建立。寺は衰退していたが応仁年間(1467~69)本尊と共に白山道奥に移建。関東大震災で倒壊し昭和初期現在地に再建、のち東光禅寺となりました。臨濟宗建長寺派。本尊は薬師如来坐像(伝重忠の念持仏、高28cm、市文化財)、脇侍に日光・月光菩薩、十二神將。寺宝に阿弥陀如来立像、聖観音立像、十六善神図(市文化財)、重忠愛用の鞍(市文化財)・鐙・轡、弁財天像などが



重忠愛用の馬具

あります。

重忠は源頼朝の重臣で剛毅誠実な武将でしたが、北条義時と戦い、二俣川(旭区)で戦死しました。釜利谷白山道が所領の一つだったので墓や愛用物が残されています。また重忠死後足利義純が畠山の名跡を継承し、後裔は室町幕府の三管領の一つとなりました。

○称名寺—寺創建後に建てられた金沢文庫と共に鎌倉時代の歴史の宝庫

金沢実時別邸内の持仏堂を文永4年(1267)開山に審海を迎え真言律宗の称名寺としました。本尊の弥勒菩薩立像(重文)を始め、仏像、仏具、梵鐘、仏画、工芸品、数千点の聖教、古文書など、多数の国宝・重文・県や市の指定文化財があり、県立金沢文庫で保管されているものが多い。

金沢貞顕の時代に寺は最も繁栄し、庭園、三重塔など境内が美しく整備されました。北条氏の滅亡

(1333)後は衰微しました。江戸時代の石橋弥平衛と近代の大橋新太郎は寺の維持に大きく貢献しました。

昭和40年代初め、裏山を宅地化する開発業者の計画が判明しました。地元住民を中心とした「称名寺裏山保全運動」が進められ、開発計画は撤回されました。横浜市「称名寺市民の森」も開園。歴史的景観保全が図られました。

○泥牛庵—金沢の風景を描き続けた角田武夫がこの寺に眠っています

第14代執権北条高時(1303~33)の遺託により南山士雲が正中2年(1325)頃、金沢八景駅西側の谷戸に開創しましたが、江戸時代米倉陣屋建設のため現在地の瀬戸に移りました。臨濟宗円覚寺派。本尊は高時の護持仏の聖観音菩薩像。寺宝は高時像、黄檗版大般若経600巻、十王図など。境内に永享の乱で自害した海老名尾張入道兄弟の供養宝篋印塔(伝)があります。

○安立寺と上行寺—「日蓮の船中間答」の旧跡、安立寺門前に「船中間答霊場」碑があります

日蓮(1222~82)が布教のため下総から鎌倉に向った際、下総国守護千葉氏の家臣富木胤継(1216~99)の船に同乗して法論を行い着岸後も寺に入り討論を続けたとされ、「日蓮の船中間答」という。着岸後入った寺は、町屋の安立寺、六浦の上行寺、杉田の妙法寺と云われています。

・安立寺：元は真言修験僧悟明の庵室。日蓮は妙法の深理を説きました。悟明は日蓮の弟子になり、名を安立院日悟と改め、文応1年(1260)頃日蓮宗の安立寺として創建しました。本尊は十界曼荼羅。寺宝に「感応の祖師像」がある。

・上行寺：元は真言宗の金勝寺といった。「船中間答」に続いての法論に住職の普識が心酔し、建長6年(1254)日蓮宗の上行寺に改宗改名しました。本尊は板曼荼羅。境内に牛馬六畜供養宝篋印塔(高さ約3m、市文化財)があります。

『吾妻鏡』を読む(10) —和田合戦(続)—

小倉 英明

三、同年五月二日、遂に和田一族は決起します。三手に分かれて攻撃を開始しますが、同心を誓った三浦義村は北条方へ寝返っていました。

同年五月二日 壬寅 陰る。

「申の刻、和田左衛門尉義盛伴党を卒してたちまちに將軍の幕下を襲ふ。件の与力衆といふは嫡男和田新左衛門尉常盛、同子息新兵衛尉朝盛入道、三男朝夷名三郎義秀、四男和田四郎左衛門尉義直、五男同五郎兵衛尉義重、六男同六郎兵衛尉義信、七男同七郎秀盛このほか土屋大学助義清(略)百五十の軍勢を三手に相分ち、まず幕府の南門ならびに相州の御第西北の南門を圍み攻め戦い義兵多くもつて傷死す。

次に広元朝臣の亭、酒客座にあり。未だ去らざる砌、義盛が大軍競ひ到り門前に進む。その名字を知らずといへどもすでに矢を發ちて攻め戦ふ。その後兇徒、横大路、御所の南西の道に到る。御所の西南政所の前において御家人等これを支え合戦数反に及ぶなり。波多野中務丞忠綱先登に進む。また三浦左衛門尉義村これに馳せ加はる。

西の剋、賊徒つひに幕府の四面を圍み、旗をなびかせ箭を飛ばす。相模修理亮泰時、同次郎朝時、上総三郎義氏等防ぎ戦ひ兵略を盡す。しかるに朝夷名三郎義秀惣門を敗り南庭に乱れ入りて、籠るところの御家人等を攻撃しあまりさえ火を御所に縦ちて郭内の宝屋一字を残さず焼亡す。これによりて將軍家(実朝)、右大將軍家(頼朝)の法花堂に入御す。火災を遁れたまふが故なり。相州(義時)大宝令(広元)御共に候ぜらる」

(注) 申の刻 十六時頃。 西の刻 十八時頃

同年五月三日 癸卯 小雨灑ぐ。

「西の刻、和田四郎左衛門尉義直年三十七。伊具馬太郎盛重がために討ち取らる。父義盛年六十七、殊に歎息す。年来鍾愛せしむるによつて義直に禄を願ふところなり。今においては合戦を励ますとも益なし

と云々。声を揚げて悲哭し東西に迷惑す。

つひに江戸左衛門尉能範が所従に討たると云々。同男五郎兵衛尉義重年三十四、六郎兵衛尉義信二十八、七郎秀盛十五、以下の張本七人共に誅に伏す。朝夷名三郎義秀三十八、ならびに数卒等海浜に出て船に棹さして安房國に赴く。その勢五百騎、船六艘と云々」

(注) 迷惑 ころたえること

(追伸)

①合戦が終わった翌朝、片瀬川の河口部に獄門台が建てられ和田方の武将たちの首が架け並べられた。

②北条義時は合戦の恩賞に和田氏の所領の相模國山内荘(北鎌倉から戸塚の辺り)を手に入れた。また義盛の後任として侍所別当の職につき、政所と侍所の両別当を兼務することになった。

③義盛のいとこ三浦義村が北条方に寝返った理由は何か。三浦本家と和田一族の微妙な関係にありました。三浦義明の長男は義宗ですが、衣笠合戦で戦死したため義明は二男の義澄に後を託しました。

三浦本家を継いだ義澄は御家人を総括する侍所別当職義盛の支配を受ける立場ですが、私的には義盛は本家の義澄に従うことになりません。このねじれ現象は義澄の子の義村の時代になると対抗意識にまで発展したことです。そして義村の娘は北条泰時に嫁して嫡男時氏を生んでいます。

④和田合戦で北条方勝利に大きく貢献した三浦義村は、御家人たちから非難の目が向けられて「三浦の犬は友を咬う也」と罵声を浴びせられたこともありました。

『吾妻鏡』を読むはこれにて最終となります。小倉さんにはご協力感謝します。

会員短信

去る10月3日の「タウンニュース」(金沢区版)に会員の熊谷哲さんが紹介されています。

熊谷さんは「わ」の会発行『新版かねざわの歴史事典』の編集委員長であり、今回の重版発行にも委員長として尽力、また「わ」の会学習会の講師になっていただいています。今回の「金沢の仏教寺院」を始め、会報「かねざわ」の「歴史研究」にも数多く寄稿していただいています。

記事にあるように89才になるにもかかわらず、その旺盛な知識欲は衰えを知りません。「わ」の会の貴重な存在といえる方です。

改めて敬意を表し、ますますのご健勝とご活躍を祈って、その記事の写真を右に掲載・紹介します。



今なお尽きぬ知識欲

○「金沢区を総合的にめつた。このたび改訂版出版 苦八苦八」と振り返る。案内するものを目指した。を機に任を退く。「当初は 編集方針は大本の資料まで約4年かけて「わの会」がまさに。群賢を撫す」と題して調べる。原点主義。執筆・編集した「かねざわ 金沢の全体像」メンバー全員が金沢を知り、歴史辞典の編集長を務め、何を載せるか四圍をこまめに調べたいという一心でよく勉強した。多くの人が褒め「技術レベルが格段に違っていた。ただ、日本が作れないものはかきとって」と話す。だつた。とても勝てない。

人物風土記

題字は 横濱市長 林文字

熊谷哲さん

金沢町在住 89歳

●「かねざわ歴史事典」の編集長を務め、このたび任を退く

○「自身の膨大な知識の基礎が形づくられたのは神奈川県の第一中学校(現希聖学院)で、当時希聖学院の校長が金沢の歴史を詳しく知っていた。敗戦の予感が頭をよぎった。とても勝てない。」

○「90歳を目前にした今も、知識欲は衰えることなどない。現在、興味をもつて調べているのは日本の精神文化史、江戸の生活習慣をベースに、仏教の影響をほつとほつとと説明する時は好奇心に満ちている。たまに通信しながら、海軍の技術士官となつた。戦地・フィリピンからもたらされた米国の機材を、過酷な環境で使っていた。思わずため息が出た。と穏やかに語つた。

会報原稿募集

9月8日、2020年の東京オリンピック開催が決まりました。9月10日に開催の会報編集委員会ではオリンピック談義に花が咲きました。

1964年の東京オリンピックの際はこの金沢の地でも聖火リレーが横須賀から横浜方面へと16号線を走り、大いに賑わった現場に居た

という話が出るなど、皆さんそれぞれにオリンピックの思い出があるようです。

そこで「私のオリンピックの思い出」とテーマを決めて、会員の皆様から原稿を募集し、次の48号に掲載することにいたしました。奮って応募願います。

募集要領

テーマ：「オリンピックの思い出」 題は自由につけてください。
字数：800字程度
応募：メール (yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com)
または、運営委員、会報編集委員に原稿を手渡し。
締切日：2014年1月20日
掲載：48号(2014年2月刊)

訂正とお詫び

45号に編集上のミスがありました。45号21ページ「浮雲俳句会抄録」No.21 枠内記事の下から2行目の俳句に「発不二家の御堂の丘に立ち」とあるのは間違いで、正しくは「初富士や能見堂の丘に立ち」です。訂正するとともに寄稿者、俳句詠者並びに読者の皆様にお詫び申し上げます。

行事予定

2013年12月～2014年2月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	12月	1月	2月
学習会	なし	なし	2月8日(土) 能見台CC 9:30～12:00 東京湾をめぐる 小田原北条氏と房総勢力 ー金沢・三浦地域を中心にー 青山学院大学 講師 真鍋 淳哉 氏
寺社を巡る会	12月5日(木) 集合：鎌倉駅 10:00 テーマ：鎌倉・逗子 訪問先：安国論寺、名越切通、 曼荼羅堂跡、法性寺、岩殿寺	1月10日(金) 集合：京急富岡駅 10:00 テーマ：富岡 訪問先：悟心寺、宝珠院、慶珊 寺、長昌寺、富岡八幡宮	2月6日(木) 集合：未定 テーマ：座学 DVD鑑賞 「百寺巡礼Ⅶ」
古文書を読む会	9:00～基礎講座		
	12月12日(木) 金沢公会堂 小田原宇佐美家文書② 12月26日(木) 金沢公会堂 秋葉山詣	1月9日(木) 金沢公会堂 宿村布川家文書 1月23日(木) 金沢公会堂 絵島生島事件	2月13日(木) 金沢公会堂 宿村布川家文書 2月27日(木) 金沢公会堂 絵島生島事件
ふれあいの道歩こう会	12月19日(木)(雨天20日) 95回=自主コース NO.10 初冬の大山に登る 神奈川県	1月16日(木)(雨天17日) 96回=自主コース NO.11 高川山とリニヤ基地 山梨県	2月20日(木)(雨天21日) 97回=自主コース NO.12 水仙花咲く花嫁街道 千葉県
懐かしの映画を観る会	12月9日(月)12:10 金沢CC 荒野の7人(米) 12月3日(月)12:30 金沢CC ザッツ・エンタテイメント(米)	1月13日(月)12:30 金沢CC 007 ゴールドフィンガー (英) 1月27日(月)12:10 金沢CC 黒部の太陽(日)	2月10日(月)12:10 金沢CC 紳士は金髪がお好き(米) カサブランカ(米) 2月24日(月)12:10 金沢CC マニー(米)
浮雲俳句会	12月22日(日)9:30～ 金沢CC 第75回例会 テーマ：海・鯨鯨	1月26日(日)9:30～ 金沢CC 第76回例会 テーマ：日本海・馬	2月23日(日)9:30～ 金沢CC 第77回例会 テーマ：相模灘・浅蜷
パソコンを使いこなす会	12月3日(火) 金沢CC Windows 実用講座 ーオリジナルCD・DVDー 12月17日(火) 金沢CC Windows 実用講座 ー日本語入力の常識ー	1月7日(火) 金沢CC Windows 実用講座 ーパソコンのトラブル対策ー 1月21日(火) 金沢CC Windows 実用講座 ーパソコンの高速化ー	2月4日(火) 金沢CC Office 実用講座 ー住所録・差し込み印刷Ⅰー 2月18日(火) 金沢CC Office 実用講座 ー住所録・差し込み印刷Ⅱー
	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

連絡先： 学習会 785-1639(今井) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)
ふれあいの道歩こう会 782-8147(小俣) 懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

発行日	平成25(2013)年11月9日
発行月	4回(2, 5, 8, 11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	大門 利晴
編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一 金久保常二 高橋 康雄

編集後記
『吾妻鏡』を読む」が47号の第10回を以て終了致しました。歴史を学ぶ会の会報として貴重な寄稿だったと思います。小倉さん長い間有り難うございました。
多士済々の会員の皆さんの中には日常書き溜めている事がいろいろあるのではないのでしょうか。48号以後も充実した会報とするために積極的な寄稿をお願い致します。歴史にこだわらず旅のエッセイなども大歓迎です。
異常気象の昨今とは言え、寒い冬が確実に近付いています。健康にはくれぐれもお気を付けてください。(I.A)